

中経 論壇

経営支援NPOクラブ監事
吉田 仁



返るのだから、それでいいではないかという主張である。孔子はコスモポリタンであつ

孫の漢文の教科書に、「荊(けい) 人弓を忘る」という短い文章を見出し、古い高校時代の記憶を呼び起こした。古代中国の荊という国の人

が、弓を置き忘れてしまったが、ある人が「荊の国の人が拾って使うだろうから無駄にはならない」と言った。それを聞いた孔子が「荊の字を外すべき」と言った。荊の国人に限らず、人間が使うからそれでもいいという訳である。それに對し、老子は「人という字を外せ」と言った。大地に

2千数百年後の私たちは、化石燃料を使って便利さを追求し、大地に返らないモノを作り、環境を壊してきた。プラスチックごみが浮遊する海や、北極海の氷河が崩れ落ちるシヨッキングな映像を見せられても、人工的な快

中国古典に学ぶ自然との共生

適さを捨てられな
いでいる。その結果
が、地球温暖化を招
いて自らを苦しめる
ことになった。古代
の人は、畏敬の念を
もって、自然と共生
していたが、近代人
は、自然の脅威を科
学の力で克服できる
と、自然に対し傲慢
になりすぎたのでは
ないだろうか。地球
環境を守る立場か
ら、アフリカでゴリ
ラの生態を研究して
いる西原智昭氏に
ついて、本欄で触れ
たことがあるが、そ
うした活動に敬意を
払いつつ、あらため
て環境を守ることの
意義を痛感してい
る。

もはや私たちは、竹林で清
談して暮らすことはできない
が、ささやかながら、省エネ
に努めることはできる。プラ
スチック容器を減らすことは
できる。利便性・快適性や効率
性を捨て去るわけではなく、
幸福感のとらえ方の転換であ
る。暑い夏の日、冷房のきい
た部屋で過ごしなくても、打
ち水した縁台で風を感じるこ
とはできる。竹はいっぱいあ
るのだから、竹の皮を拾って
きて食べ物を含んでみよう。
それでも不都合はない。竹の
皮を拾いに行くことで、山が
荒れている状況に気付くこと
にもなる。

持続可能な開発を目指す
SDGsの項目の中でも、ク
リーンエネルギーへの転換
がうたわれ、環境保全への社
会的な取り組みが始まって
いるが、古典の中に、自然と
の共生を見出して、あらた
めて個人の省エネへの努力
の必要性を痛感した次第で
ある。

個人の省エネの必要性痛感